

# 加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2023年7月29日	天候	晴れ	活動時間	16:00～18:00
作業者	久保田 潤一	報告者	久保田 潤一		
目的	生物調査、ビオトープ管理、勉強会				
内容					
<b>【作業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープの写真撮影</li><li>・水深の確認</li><li>・生物調査</li><li>・外来種のチェック</li><li>・ロガーつき温度計の設置</li></ul>					
<b>【生物調査の詳細】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。</li><li>・導入したミゾコウジュは、池の中・外ともに順調な生育を確認した。</li><li>・今回もシャジクモがビオトープ一面に繁茂していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。</li><li>・トチカガミを1株確認した。本種は23区では絶滅した種であり、復活となれば大きな成果である。今一度、土の導入先について確認する。</li><li>・種不明の水草を確認した。葉の形状はミクリ類に似ているが、まだ株が小さく特定はできない。</li><li>・ヒメアメンボの成虫1個体を確認した。</li><li>・ウスバキトンボの成虫を1個体確認した。</li><li>・シオカラトンボの幼虫(ヤゴ)を確認した。本種もビオトープ造成後に飛来したものである。</li><li>・オオシオカラトンボの幼虫(ヤゴ)を確認した。</li><li>・ショウジョウトンボ属の一種の幼虫(ヤゴ)を複数確認した。ショウジョウトンボである可能性が高いが、まだ齢が浅いため保留とした。</li><li>・コカゲロウ属の一種の幼虫を多数確認した。フタバカゲロウの可能性が高い。</li><li>・外来種として、アメリカアゼナを1株確認した。土の中に種子が存在していたと考えられる。</li><li>・遷移段階初期の湿地環境が創出され、非常に良い状態である。まだ確認種は少ないが、水草の繁茂に伴ってトンボ類やその他水生昆虫の飛来増が期待できる。</li><li>・ミズギワカメムシ類の生息も確認しており、次回以降に種の特定を行う。</li></ul>					
<b>【その他】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープの日当たりは良好で、水草の繁茂には申し分ない。</li><li>・水深は最浅部で2～3cm程度であり、良好な状態である。</li><li>・ロガーつき温度計をビオトープの最深エリアの水中に設置した。1日に5回、約1年間測定を行う。メダカの飼育等が可能かを検討するためのデータ取得である。</li></ul>					



No. 1

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープ全景。

前回同様、一番浅い左側にはやや背の高い草が、それより右のエリアには藻が繁茂しているのが見える。



No. 2

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

浅水域に抽水植物群落が発達してきた。



No. 3

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

トチカガミ。本種は23区では絶滅した種であり、復活となれば大きな成果である。今一度、土の導入先について確認する。



No. 4

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

トチカガミの葉の裏面。浮袋が確認できる。



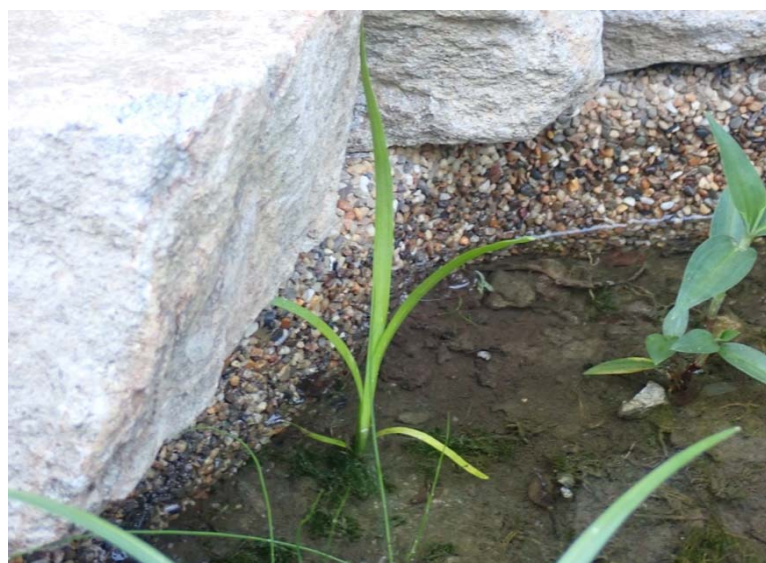
No. 5

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

在来種のツユクサ



No. 6

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

種不明の水草。希少種であるミクリ類の可能性もある。



No. 7

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

在来種のコナギ。水田や湿地に生育する。



No. 8

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

外来種のアメリカゼナ。埋土種子からの発芽である。今後は見つけ次第駆除していく。



No. 9

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ウスバキトンボの成虫の飛来を初めて確認した。



No. 10

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

オオシオカラトンボの幼虫(ヤゴ)



No. 11

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ショウジョウトンボと思われる幼虫(ヤゴ)



No. 12

撮影日: 2023年7月29日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ロガーつき温度計をビオトープの最深エリアの水中に設置した。本体はボタン電池型で、写真の白いものはそれに被せた防水カバーである。水温を継続的に測定する。

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度		
			環境省	東京都 区部			7/10	7/29	
昆虫類	ヒメアメンボ	自然飛来				6月の記録も含めると複数個体を確認	○	○	
	ミズギワカメムシ科の一種	自然飛来						○	
	シオカラトンボ	自然飛来				成虫を確認	○		
	オオシオカラトンボ	自然飛来				繁殖を確認	○	○	
	ショウジョウトンボ属の一種	自然飛来				繁殖を確認		○	
	ウスバキトンボ	自然飛来				成虫のみ		○	
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○	○	
	トゲバゴマフガムシ	不明				由来は不明	○		
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU			○	○	
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○	○	
	コナギ	発芽						○	
	ツユクサ	発芽						○	
	アメリカアゼナ	発芽			○			○	
	トチカガミ	発芽	NT	EX				○	
	種不明の水草	発芽				ミクリ類?		○	
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○	○	

※確認記録

○: 調査で確認

△: 聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの